

令和3年度 森林づくり県民税活用事業 上伊那地域の事例

- 1 里山整備（防災・減災、県民協働）
- 2 ライフライン等保全対策
- 3 県民協働による里山の整備・利用
- 4 子どもの居場所の木質化・木のおもちゃの整備
- 5 木づかい空間整備
- 6 木工体験活動支援
- 7 観光地等魅力向上森林景観整備
- 8 森林づくり県民税のPR

1 みんなで支える里山整備



【防災・減災】

中川村片桐

保育間伐

【県民協働】

飯島町七久保

搬出間伐



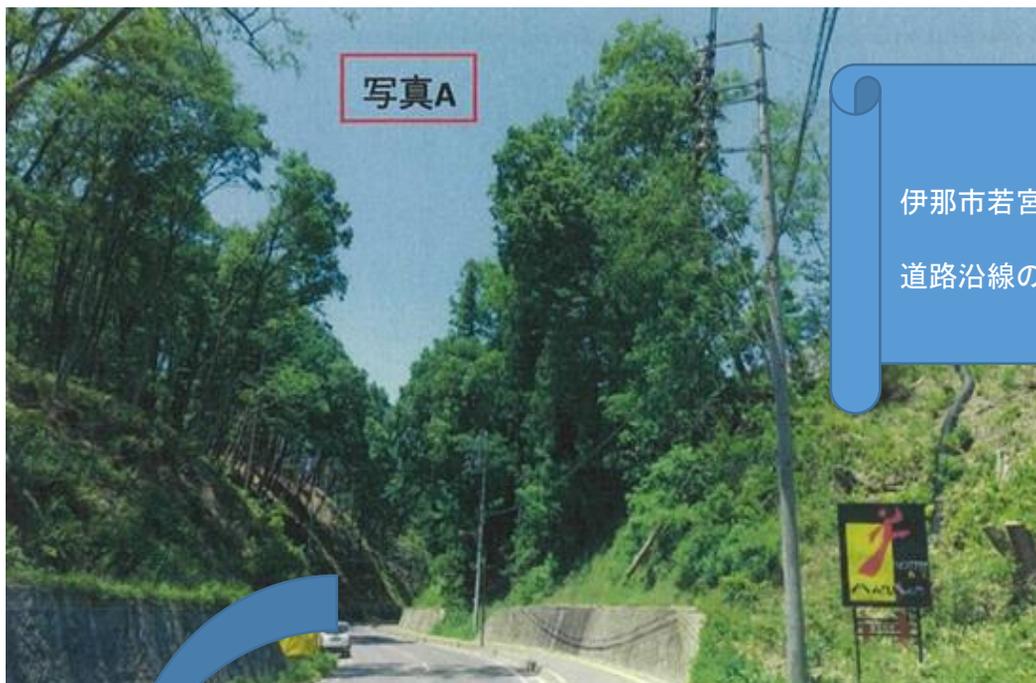
【県民協働】

箕輪町三日町

修景林間整備



2 ライフライン等保全対策



3 県民協働による里山の整備・利用



飯島町南駒ヶ岳

里山資源の薪利用

※作業で発生した伐採木を地域の備蓄燃料に利用



伊那市上牧

里山資源の炭利用

※炭利用のほか、小学校の森林・林業教育への協力も実施

4 子どもの居場所の木質化・木のおもちゃの整備



伊那市

長野トヨタ自動車(株)

※キッズコーナー



箕輪町

町内保育園



伊那市

つくしんぼ保育園

※床板の張替え



伊那市

長谷保育園

※木柵の設置



箕輪町

木下保育園

※遊戯室の内装木質化

5 木づかい空間整備

箕輪町

パン工房窯屋

※窓ルーバー、内装、調度品の木質化



6 木工体験活動支援



伊那小学校

間伐材を使った椅子
づくり

※市役所ホールで作
品展示を実施

伊那市

長谷小学校

※学習机の天板の取
付



中川村

中川東小学校

※村有林の間伐材を
使ったクリスマスツリー

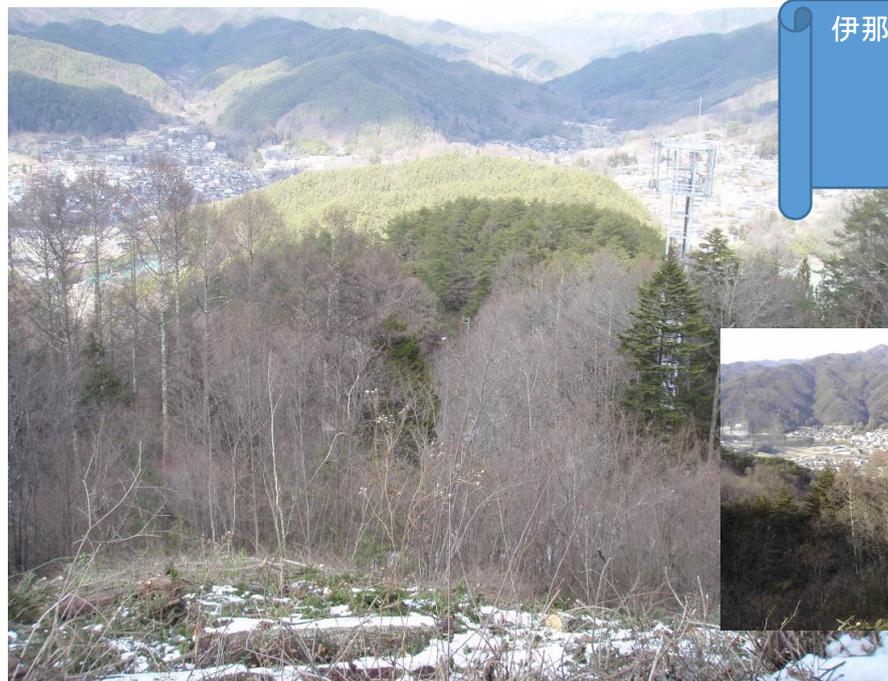
伊那市高遠町

市民活動団体あいさ

※古民家のリノベーション
(ウッドデッキ製作)



7 観光地等魅力向上森林景観整備



伊那市高遠町

五郎山



駒ヶ根市

駒ヶ根高原





森林税、を活用した里山整備

未来につながる私たちの森

……… みんなで支える森林づくり ………

長野県では、県民みんなで森林づくりを支える仕組みとして「長野県森林づくり県民税(通称・森林税)」が導入されています。同税を活用する里山整備利用地域に、上伊那地域では現在19カ所が認定され、それぞれの地域で住民参加の里山利用が進んでいます。

沢底地区の里山を整備

次世代を育て、地域の未来に

辰野町沢底地区では、関わりが盛んだった同地区。しかし、経済成長とともに生活様式が変わり、1985年を境に町全体の人口が急速に減少。高齢化も進み、担い手不足から、森林整備の遅れがみられるようになりました。



間伐した木を切りそろえ、運搬車で運び出す

山が整備されないことで里の農地にも有害鳥獣被害が及びようになり、その影響で耕作放棄地は増加の一方。「生産性も将来の展望もない山への関心は薄れるばかり」と同



新は年間およそ3000束を生産。共有地に積み上げ、来季に向けて1年間乾燥させてから販売する

またこれらの作業と並行して、地域の子どもたち

上牧の森林を「おらが里山」に!

地域ぐるみで学校林の整備も

伊那市北部の上牧地区は、西側を流れる天竜川の河岸段丘に位置し、地域全体に、かつて住民が生活の糧として利用した里山が広がっています。住宅地



植樹した苗木にからまったクスのつるやニセアカシアを手作業で刈り払う

働で花壇づくりをしたのを皮切りに、共有林や私有林の整備に着手し、森林税などによる補助金を活用しながら、現在も地区内全域の里山保全に取り組んでいます。

地域住民とともに作業する伊那北小学校児童たち。学校林整備は、毎年6年生の児童が参加。徐々に森が生まれ変わりに植えたカキやクヌギが大きくならた頃、遊びに来るのが楽しみ。子どもたち

2013年に間伐を行った約25haの森林には、住民が健康づくりやリフレッシュに活用できる自然パークを創設。総延長約7kmの遊歩道沿いに、マレットゴルフ場、炭焼き窯、バ



また、地元の伊那北小学校と連携し、近くの里山に広がる「ほ」と話しています。

長野県森林づくり県民税とは

県土の約8割を占める森林を適切に手入れし、健全な姿で次世代に受け継ぐための「森林づくり」を支える仕組み。2008年度から導入され、県民一人あたり年間500円を納税しています。当初から行われている里山整備に加え、現在は、教育や観光といった多面的な森林の利活用にも使途が広がり、さまざまな地域や分野で、住民が主体的に森林を整備・利用する取り組みに幅広く活用されています。

問・上伊那地域振興局林務課 ☎0265・76・6823

を、体験・創造ができる学校林として活用する整備事業を2015年に始めました。危険木などを伐採後、新たな森を育てる植樹や雑草木の刈り払い作業には児童も参加。林業の専門家や住民とともに実践を通して、地域の自然を学び、里山への関心や愛着を深めています。

同団体代表の唐木隆夫さん(71)は「時代の流れの中で活用の仕方が変わっても、里山が生まれ育った地域の財産であることは変わらない。協働で里山を育てる取り組みが各地に広がってほしい」と話しています。

再生した里山に造られた自然パーク。豊かな自然の中で散策が楽しめる。